新座市指定管理者制度導入施設管理状況評価シート（令和３年度分）

【施設の概要】（所管部記入）

施設名	新座市児童センター及び福祉の里児童センター			
所在地	新座市本多１－３－１０、新座市新塚１－４－５		所管部署	こども未来部　こども支援課
制度導入年度		平成２２年度	選定方法	☑ 公募　／　☐ 指名
指　定管理者	名称	特定非営利活動法人新座子育てネットワーク	所在地	新座市菅沢１－４－５
	指定期間	平成３０年４月１日～令和５年３月３１日（５年間）		

【事業概要】（指定管理者記入）

事業概要	令和２年度から続く新型コロナウイルス感染拡大に伴う利用制限及び新座市財政非常事態宣言下でも、子どもの健全育成のため、遊び・学び・ふれあいの三つの柱を基本に、０歳から18歳までの子どもの心身の発達に応じたきめ細かな事業運営や支援を行った。臨時休館後は事業が一律中止となったものの、計画していた事業に代わる取り組みや新たな遊びを季節性にも配慮しながら提供した。事業再開後は事業目的を明確にし、実施後は評価と見直しを合わせて行った。事業は①子どもの健全育成事業（子どもの遊びと学び事業（全学年、小学生、乳幼児の対象別））、②相談事業、③子ども参画事業、④中高生の居場所事業、⑤要支援児童事業、⑥親支援事業（母親・父親）⑦地域連携・異世代交流事業、⑧情報提供事業、⑨運営協議会等の9分野にわたり、令和３年度は２館合計で開催数2,085回、延べ参加者数23,342人となった。また、来館者数は２館合計48,908人だった。１カ月の平均利用者数は4,076人で、昨年度の2,567人から58.8%増加した。
特筆事項	※　運営において創意工夫した点や指定管理者の提案による新たな取組等を記載 令和３年度も新座市児童センターと新座市福祉の里児童センターの２館で、効率的な運営を図るため、情報の共有や事業連携、職員研修の強化に努めた。新型コロナウィルス感染拡大防止のため、利用者の安心・安全を最優先とした施設運営をしながら、三密を避けた遊びの提供や段階的な事業再開を行った。また、新座市の財政非常事態宣言発令に伴い、人件費や消耗品費、講師謝金等の大幅な削減による影響も大きかったが、限られた状況・予算内で最大限の効果が得られるよう創意工夫して事業を展開した。 コロナウィルス感染症対策予算で衛生用品等を購入し、１日４回の消毒を効率的に行えるよう努めたほか、予算管理表を別途作成し、支出状況の把握と適切な予算管理を行った。 ●令和２年度から続く新型コロナウイルス感染拡大の影響に加え、新座市の財政非常事態宣言発令に伴い、昨年度以上に厳しい状況での運営となった。特に人件費や講師謝金削減は事業運営に大きな影響を与え、開催数の大幅な削減や中止を余儀なくされた事業もあった。しかし、限られた資源を最大限に活用し、職員同士で知恵を絞りながらそれを補う取り組みを実施した。特に館内外をめぐりながら謎解きやミッションに挑戦する館内周遊型ゲームは両センターともに人気が高く、両センター合計で2,095人が参加した。アンケートでも「謎解き系のイベントは子どもが大好きで、よく遊ばせてもらいました。楽しかったです」「考えるのは大変かと思いますが今後も定期的にしていただけると嬉しいです」といった声が寄せられ、コロナ禍であっても子どもたちに質の高い遊びを提供することができた。 ●令和３年度の中高生の利用者数は２館合計で3,301人だった。コロナ禍によるオンライン授業の開始や学校行事・部活の中止等、非日常にさらされ続けている中高生たちに対し、ありのままの姿で思い思いに過ごせる居場所づくりを意識的に実施した。新座市児童センターでは２か月に１回程度「中高生のきまぐれカフェ」を開催した。ボードゲームやクイズ大会、ハロウィンやクリスマス等季節のイベントになぞらえたテーマで実施し、中高生同士・中高生と職員が交流する機会を提供した。福祉の里児童センターでは、不登校の高校生が定期的に来館し、学校や家庭のこと等、様々な悩みを相談していた。児童センターを「自分らしくいられる居場所」と感じ、職員と話したり、年下の利用者と関わる中で、将来の自分の姿を意識し始め、児童センターでのボランティア活動へとつながった。他の利用者との関わりや、児童センター事業の補助などを行う中で、達成感を感じ、少しずつ自信を獲得したことで、自分自身の課題と前向きに向き合うことができるようになった。 ●障がいや低出生等によりゆっくり育つ子どもと保護者がつどい、交流する事業を継続開催した。新座市児童センターでは特別ニーズサロン「ポレポレくらぶ」を開催し、子どもを遊ばせながら、親子の関わり方について専門家から助言をもらったり、先輩ママ・パパから話を聞き、悩みを共有する機会を提供した。また、新規事業として「学校に行きづらい子どもの親のつどい」を開催した。専門家を講師に招き、現代の不登校児を取り巻く現状や子どもの心を支えるヒントについて学び、保護者同士が交流した。参加者からは次年度以降の継続開催を望む声が寄せられている。福祉の里児童センターでは、”障がいのある人もない人もともに過ごす地域”について、様々な立場から考えるワークショップ「サラダボウル」を開催した。講師からのレクチャーを受け、それぞれの立場でできることを話し合い、終了後の感想には「市内の他地域での取り組みを聞いて、自分の地域でも何かしたいと思った」との声もあった。 また、団体利用の定員を両館共に拡大したところ、放課後等デイサービスの利用が少しずつ増加している。放課後等デイサービスの職員からは、コロナ禍で地域の中での遊び場・居場所が減少し困っていたとの声も聞かれ、特別ニーズを抱える子どもや保護者・支援者からのニーズに応えることができた。 ●平成27年度から取り組みを始めた子どもの貧困対策事業では、子育て中のひとり親家庭・経済困窮家庭等に無償で食品や日用品を配付する「フードパントリー」を継続して開催した。小学校の長期休みに合わせて年４回開催し、両センター合計320家庭へ配布を行った。実施にあたっては地域の商店・事業所・ボランティア団体等との連携を密にし、ただものをもらうだけでなく、利用者と地域・職員がつながれるような働きかけを心がけた。フードパントリーの利用家庭は半数以上がひとり親家庭となっており、苦しい状況にある家庭への支援を行った。 あわせて、子育てグッズの交換会「はぁとBOX」を開催し5,144人が利用したたほか、生理用品を無償で配布する「レッドボックス」を設置し、さまざまな面から特別ニーズを抱える子ども・家庭への支援を行った。

【総合評価】

指定管理者の自己評価

総合評価	S	☐	優良	項目別評価総括が全てＡ以上であり、Ｓが二つ以上である。
	A	☑	適正	項目別評価総括が全てＡ以上である（上記以外）。
	B	☐	課題あり	項目別評価総括にＢが含まれている。
評価内容	児童センターの設置目的を理解し、利用サービスの向上、組織および施設の管理、経費の取扱い等に工夫しながら、適切且つ誠実に取り組んだ。新型コロナウイルス感染拡大及び新座市財政非常事態宣言の影響を受け、利用制限や予算削減といった等の状況下であっても柔軟に対応し、社会状況・開館状況に合わせた施設運営を創意工夫して行った。			
改善策	※　評価Ｂの場合のみ記入			

市の評価

総合評価	S	☐	優良	項目別評価総括が全てＡ以上であり、Ｓが二つ以上である。
	A	☑	適正	項目別評価総括が全てＡ以上である（上記以外）。
	B	☐	課題あり	項目別評価総括にＢが含まれている。
評価内容	昨年度同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のための利用制限や、財政非常事態宣言に伴う予算削減など、例年とは異なる状況下であっても、柔軟に対応し利用サービスの向上に務めている。しかしながら、補助金の申請や法人主催事業実施に関して、法人と指定管理者の立場が不明確な点が見受けられたので、今後はきちんと区別するようお願いしたい。			

【市の評価を受けた今後の取組や改善策等】（指定管理者記入）

令和3年度は新座市の財政非常事態宣言に伴う予算削減下であっても従来同様の質の高い事業を提供すべく、助成金事業を開催した。例年通り、法人主催事業として助成金を申請し、児童センターを会場に実施する形で行ったが、こども支援課との事前のすり合わせや認識の共有が十分でなく、行き違いが生じてしまった。今後、助成金・補助金を活用する際には、申請前にこども支援課と丁寧な調整を行ったうえで、予算縮減や良質な事業の提供に努めていく。

【過年度の評価結果まとめ】（所管部記入）

評価区分	Ｈ３０年度（1年目）	Ｒ１年度（2年目）	Ｒ２年度（3年目）	Ｒ３年度（4年目）	Ｒ４年度（5年目）
指定管理者の自己評価	A	A	A	A	
市の評価	A	A	A	A	